

京都府私立幼稚園連盟キンダーカウンセラー派遣事業

におけるカウンセラーの活動実態

—令和6年度キンダーカウンセラーアンケート集計結果の報告—

原口喜充・太田敬子・辻麻衣子・金納史佳

竹村彩果・山川智栄子・加藤美帆

(京都府臨床心理士会子育て支援部局運営委員)

1. はじめに

京都府臨床心理士会子育て支援部局（以下、本部局）では主に、キンダーカウンセラー派遣事業（以下、KC 事業）を京都府私立幼稚園連盟と共催で運営している。事業立ち上げ経緯について、詳細が説明されている菅野（2025）によると、2009 年 10 月に京都府私立幼稚園連盟より京都府臨床心理士会に協力の依頼があり、2009 年度途中で試験的な実施が始まった。その結果を受け、2010 年度から事業として継続している。事業名を「保育カウンセリング」ではなく、「キンダーカウンセリング（キンダーカウンセラー）」とした理由として菅野（2025）は、「設置の主体が私立幼稚園でありの連合体だったので、幼稚園（キンダーガーデン）で繰り広げられる幼児教育を念頭に置き、園児たちとの支援と、そこに関わる保育者や保護者の支援を目指した」としており、この名称に込められたものが、KC 事業の基本理念であり目的であると言える。

KC 事業では幼稚園連盟に推薦するキンダーカウンセラー（以下、KC）を4年に1度公募している。応募にあたっては、京都府臨床心理士会会員であることに加え、臨床心理士資格取得後5年を経過していること、乳幼児の発達・心理に関わる相談業務の経験、スクールカウンセラーや KC、巡回保育相談などの巡回訪問型の相談経験、子育て支援部局主催研修会に年間4回のうち1回以上参加出来ること等、一定の条件を設けており、KC の質の担保に努めている。上記の応募条件を満たした KC を幼稚園連盟に推薦し、幼稚園に KC が派遣される。

KC の一回の勤務時間は6時間を標準としており、園側の補助金要件として年間3回以上の実施となっている。KC の役割としては、まず幼稚園のニーズや状況などを把握し、園児の行動観察、発達アセスメントを行った上で、保育者へのコンサルテーションや保護者相談を実施する。また、園の要請に応じ、保護者向けの講演会や保育者への園内研修会、他機関との連携にも対応している。

このように本部局では KC 事業を継続してきたが、近年その活動実態について公表していなかった。そこで、本部局 KC について実態調査を行い、公表することとした。本調査の目的は、京都府臨床心理士会子育て支援部局に所属する KC の実践について、その実態を明

らかにすることである。

2. 方法

京都府臨床心理士会に所属し、京都府内の幼稚園・認定こども園にて、キンダーカウンセラーを対象に、質問紙調査を実施した。調査は google フォームを用いた web 調査とし、2025 年 3 月に E-mail にて調査フォームを送信し、令和 6 年度の自身の活動について、回答を求めた。

質問項目は、年間出勤回数、活動内容、それぞれの活動の実施人数や回数と KC の年齢、臨床心理士としての経験年数（CP 歴）、KC としての経験年数（KC 歴）であった。質問に応じ、選択肢、または自由記述での回答を求めた。CP 歴及び KC 歴については、小数点以下は切り上げとした。

なお、アンケートの回答に先立ち、調査フォーム上で回答結果の公表に関する同意を得た。また、本調査は、京都府臨床心理士会理事会の承認のもと実施された。

3. 結果

(1) カウンセラーの基礎情報

36 名からの有効回答が得られた（有効回答率 97.3%）。なお、36 名のうち 25 名は 1 園、11 名は 2 園で京都府臨床心理士会の KC として活動しており、計 47 園分のデータを集計に用いた。KC の年齢構成は、30 代 5 名、40 代 10 名、50 代 14 名、60 代以上 7 名であり、20 代は 0 名であった（表 1）。また、臨床心理士としての経験年数（CP 歴）は、平均 18.26 年（標準偏差 6.20）、中央値 20 年、最大値 36 年、最小値 9 年であった。KC としての経験年数（KC 歴）については、平均 9.17 年（標準偏差 5.12）、中央値 9 年、最大値 20 年、最小値 1 年であった。

園ごとの KC の出勤回数は平均 6.77 回（標準偏差 2.21、中央値 7 回）であり、平均して隔月以上となっていた。最大は月 1 回程度の 12 回、最小は 1 回であった。

表 1 KC の年齢構成

年齢	人数
20 代	0
30 代	5
40 代	10
50 代	14
60 代以上	7

表 2 KC の平均 CP 歴・KC 歴及び出勤回数

	CP 歴	KC 歴	出勤回数
平均	18.26	9.17	6.77
標準偏差	6.20	5.12	2.21
中央値	20	9	7
最大値	36	20	12
最小値	9	1	1

(2) 実施されている活動内容

それぞれの活動について、実施している園の数を表3に示す。全47園のうち、「行動観察」は47園、「担任とのコンサルテーション」は46園で実施されており、「担任とのコンサルテーション」を実施していない残り1園においても、主任や園長等の管理職が参加する「拡大コンサルテーション」は実施されていた。「拡大コンサルテーション」については、全体の6割以上の30園で実施されていた。おり、担任保育者に対する一対一の支援だけでなく、集団としての「園」に対する支援も行われていると言える。「保護者向け子育て相談」は33園（70.2%）で実施されていたが、全ての園で実施されているわけではなかった。この他の活動については、「職員全体とのカンファレンス」は5園（10.6%）、「職員研修」は5園（10.6%）、「保護者向け講演会」は3園（6.4%）、「おたより発行」は4園（8.5%）「職員のメンタルヘルス相談」は12園（25.5%）、「園と他機関との連絡調整」は4園（8.5%）で実施されていた。「その他」の具体的な内容については、「子育てサロン」1名、「子育て相談以外の保護者相談」1名であった。

表3 活動内容ごとの人数

活動内容	実施園数
行動観察	47
クラス参観	44※
担任とのコンサルテーション	46
拡大コンサルテーション	30
カンファレンス	5
職員研修	5
保護者向け講演会	3
保護者向け子育て相談	33
おたより発行	4
職員のメンタルヘルス相談	12
園と他機関との連絡調整	4
その他	2

※ クラス参観については、44名からの回答に留まっているが、回答していない3名も、後述の一日の参観クラス数は「1」以上の回答をしており、実際は全ての園で実施されていると考えられる。

(3) それぞれの活動の実施実態

各活動を実施している園における、実施実態に関する概要は表 4 の通りである。各活動の詳細を以下に示す。

表 4 各活動の実施実態

	行動観察 (人/日)	参観クラス (/日)	コンサルテーシ ョン (人/日)	保護者相談 (人/日)	おたより発行 (回/年)	職員相談 (人/日)
平均	6.00	3.27	3.87	1.63	2.50	1.17
標準偏差	3.15	1.34	2.60	0.83	1.12	0.49
中央値	5	3	3	1.875	2.5	1
最大値	15	7	15	3	4	2
最小値	2	1	1	0.2	1	0.25

①園児に対する行動観察及びクラス参観

「行動観察」の対象となった園児について、一日の平均人数は 6 名（標準偏差 3.15）であった。中央値は 5 名であり、最大値 15 名、最小値 2 名であった。一日のクラス参観数については、平均 3.27 クラス（標準偏差 1.34）であり、中央値 3 クラス、最大値 7 クラス、最小値 2 クラスであった。分布は図 1 及び図 2 の通りであった。

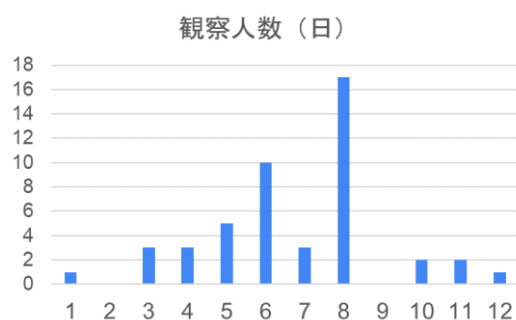


図 1 一日の行動観察人数

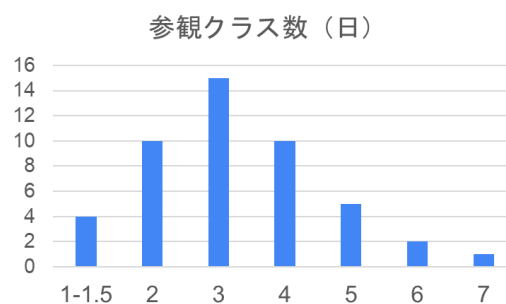


図 2 一日の参観クラス数

②保育者に対する支援

「担任とのコンサルテーション」について、一日の実施人数は平均 3.87 人（標準偏差 2.60）であり、中央値 3 人、最大値 15 人、最小値 1 人であった。分布は図 3 の通りであった。多くの KC が、1～5 名程度の担任保育者とコンサルテーションを行っているが、中には一日に 10 名を超える担任保育者とのコンサルテーションを実施している KC も見られた。

「職員のメンタルヘルス相談」を実施している 12 園における、一日の実施人数は 1.17（標準偏差 0.49）名であり、中央値 1 名、最大値 2 名、最小値 0.25 名であった。

「職員研修」については、5 園で実施されていた。具体的なテーマとしては、「気になる子どもの共通理解」、「事例検討会・カンファレンス」、「寄り添う保育とは」、「保護者懇談で

の声掛けの仕方」,「保護者の疑問に答える」が挙げられた。

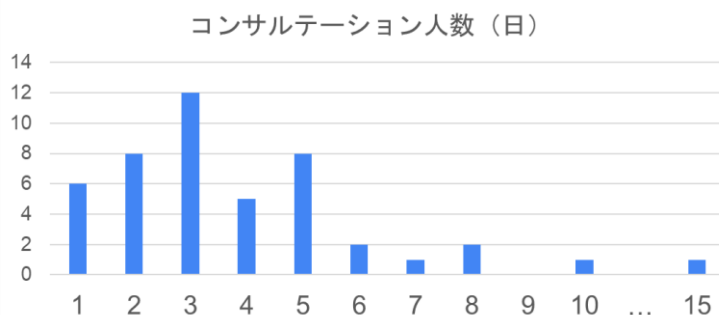


図3 一日のコンサルテーション人数

③保護者に対する支援

保護者への直接支援としては「保護者向け子育て相談」が33園と、最も多く行われており,「保護者向け講演会」は3園,「おたよりの発行」は4園と実施している園は限定的であった。

「保護者向け子育て相談」を実施している33園における,一日の実施人数は平均1.63(標準偏差0.83)人であり,中央値,1.875人,最大値3人,最小値0.2人であった。「おたより発行」について,実施している4園における平均発行回数は,年間2.50(標準偏差1.12)回であり,中央値2.5回,最大値4回,最小値1回であった。

「保護者向け講演会」の具体的なテーマは,「褒めるとは」「2歳児の発達・子育てについて」,「自分でできる力を育む」が挙げられた。

④園と他機関との連絡調整

「園と他機関との連絡調整」は4園で実施されていた。具体的な連携先は「保健師・保健センター(主に健診に関して)」3園,「児童福祉センター」2園であった(重複有)。

4. まとめ

本報告では,京都府臨床心理士会子育て支援部局に所属するKCの実践について,その実態を明らかにすることを目的に,令和6年度の活動実態についてアンケート調査を行った結果を示した。

アンケートの結果,KCの年齢及び経験年数については,ややベテランが多い傾向にあったが,30代も複数おり,幅広い年齢の臨床心理士がKCとして活動していると言える。20代がいなかったことについては,資格取得後5年以上という応募条件によるものである。ただし,本事業を継続的に実施していくためには,新たにKCとなる若手の臨床心理士の育成も必要であると考えられる。

勤務回数は、平均で隔月程度、最大でも年間 12 回となっており、スクールカウンセラーと比べると少ない現状が明らかとなった。活動内容については、園児を対象とする「行動観察」と、それに基づく保育者に対する「コンサルテーション」は全ての園で行われており、これらが KC の基本的な活動であると言える。コンサルテーションは、担任保育者に対するものだけでなく、管理職を含めた「拡大コンサルテーション」も 6 割以上の園で行われており、保育者支援としては一对一の個別的な支援だけでなく、保育者集団や園全体に対する支援も行われていると言える。馬見塚（2014）によると、2014 年の本部局 KC の活動について、園の方針や特徴によって「求められる活動は多様」ではあるものの、「どの園においても、まずは、気になる子どもの観察と教員へのコンサルテーションは 100%行われています」と報告されており、事業開始初期から 10 年以上同様のスタイルが継続していると言える。

一方、「保護者向け子育て相談」については 33 園（70.2%）で行われていたが、全ての園で行われているわけではなかった。また、保育者に対する研修やメンタルヘルス相談及び、保護者に向けたおたよりの発行や講演会、園と他機関との連絡調整の実施は限定的であった。これらの活動は KC のさらなる活躍の余地でもあるとも考えられるが、園のニーズの有無や KC が実施しない理由について、今後検討していく必要がある。

近年、全国各地で KC やそれに類似する臨床が行われていることを耳にする機会が増えている。本調査結果が、本部局だけでなく、各地での臨床の発展に役立てば幸いである。

文献

馬見塚珠生（2014）. 京都府臨床心理士会子育て支援部局の活動について. 子育て支援と心理臨床, 8 号, 122-123.

菅野信夫（2025）. 関西におけるキンダーカウンセリング事業——その立ち上げから現在、そしてこれから. 亀口憲治・深津千賀子・滝口俊子・馬場禮子（編）. 臨床心理士による心のケアと子育て支援. 福村出版. pp.240-252.